



令和三年度 茶道部・部誌

目次

一年間部長をさせていただいて 黒澤 春陽

茶道部の紹介 黒澤 春陽

茶道部に入部して 西之坊 蓮

茶道の魅力 川口 慶人

興味が尽きないもの 茶碗 浅井 悠貴

家元見学について 桐井 海舟

茶道の奥ゆかしさ 福井 康太郎

家元見学 長谷川 泰星

茶道部の卒業生より

『茶道部の活動を振り返って』

財津 真生

三田 龍之介

塚本 遼平

小林 由和

一年間部長をさせて頂いて

第十二代部長 黒澤 春陽

私は、昨令和二年に茶道部部长を拝命しました。特に室内で飲食をするクラブだっただけに、緊急事態宣言期間中は活動が出来ず、二か月近く何もしない為、忘れた状態からのスタートになる事が何度もあり、また文化祭が行われるか分からない状況の中で、私も含めてモチベーションの維持に苦労しました。覚えては忘れての繰り返しになり、状況として仕方ない部分もあると思いますが、無断欠席や、未連絡の人が目立ってしまいました。いつもと違い、イレギュラーが多かった事も原因かもしれません。私自身、出欠確認は、しっかりと連絡係がしてくれるし、全体挨拶をして、お点前を教える事が部長の仕事だと思っていた節があり、肝心な、部の統率という役割を忘れていたと思

ます。何もしなくても部はまとまってくれると思っていました。が、困難の中では、もっとリードした方が良かったかもしれません。部長として、もっと積極的に声掛けをしていくべきだったなと振り返って見て思いました。私自身、お点前には自信があったのですが、忘れていた所もあり、習慣化する事の大切さや、当たり前の尊さに気付きました。イレギュラーな事への対応力を発揮出来なかった事が残念に思われます。次の文章に書いていますが、例年なら、お初釜・家元見学・作陶体験・文化祭という行事があるものの、今年はお初釜と作陶体験は中止になり、家元見学と規模を縮小しての文化祭のみとなりました。早く茶道部にも日常が戻って欲しいと思

茶道部の紹介

黒澤 春陽

茶道部は週に一回、北館の二階にある「清浄庵」という茶室で活動をしています。清浄庵は、煩惱・私欲などがなく、心身が清らかという意味が込められています。表千家家元の「松風楼」と内室のサイズが等しく、風情があります。今年は新型コロナウイルスの影響で、一部中止になりましたが、例年なら、お初釜、家元見学、作陶体験、文化祭といった楽しい行事がたくさんあります。今年はお初釜と作陶体験は中止になってしまいましたが、作陶ではなくても、和菓子や抹茶作り等を後輩たちには体験してもらえたらなと思

す。そして、「茶道」と聞くと、「道」とついているし、第一印象として

堅苦しいと感じる方もいると思いますが、茶道部では先生のご指導の元、互いに教えあえる、和気あいあいとした雰囲気で活動をしています。一昨年から、先輩方が大勢ご卒業され、字のごとく、部員が半減してしまいました。その分、新入部員に手厚いサポートが出来ますので、少しでも興味のある方は、まず体験にいらしてください。お待ちしております。

茶道部に入部して

西之坊 蓮

僕は茶道部に入って良かったと思っています。茶道部で、お茶をお茶碗に入れるなどのお点前をするだけでなく、先生や先輩方との関わり方・礼儀など色々学べることが多いからです。また、先生や先輩方が優しいからです。小西先

生は、僕がお点前の時に間違えてしまうと、とても丁寧に細かいところまで指導してくださいませ。先輩たちは、自分が何を誰と話したら良いのか分からずに一人でいたときに、積極的に話しかけてくれます。僕はまだ茶道部にあまり馴染めていないような気がしますが、これからは話しかけるのを待つのではなく、自分から積極的に話しかけてみようと思います。このような理由で、僕は茶道部に入って良かったと思います。僕はまだまだ先輩方のような優しさや心の余裕が全くと言ってもおかしくないくらいに足りません。これからは僕もそんな人になれるように、先生や先輩方への感謝の気持ち・自分から積極的に話しかけるということ・礼儀を忘れずに日々の稽古を大切に組みみたいで

茶道の魅力

川口 慶人

茶道部に入ってから今までに楽しかったことが沢山ありました。特に思い出しに残ったことが二つあります。

一つ目は、一年生の時の文化祭です。その頃はほとんど何も知らなかったのですが、先輩が人前でお点前をしていることがとてもカッコよかったです。僕も、いつか緊張せず完璧にできるようになりたいと思いました。他の先輩と一緒に自分のできることを一生懸命したことは、とても楽しかったです。しかし、昨年はコロナの影響で中止になってしまい、何もすることができず、つまらない年になってしまいました。今年は例年とは違

う形であったとしても実施できたので、うれしい限りでした。

二つ目は、郊外へ茶碗を作りに行ったことです。一から作り方を教えてもらい、茶碗ができればまで時間がかかりましたが、とてもやりがいを感じました。残念ながら自分で色付けをすることはできませんでしたが、自分だけの茶碗を作れたので満足でした。

クラブを楽しむためには、一回一回の稽古が欠かせません。また来年の文化祭のために頑張ってください。

興味が尽きないもの 茶碗

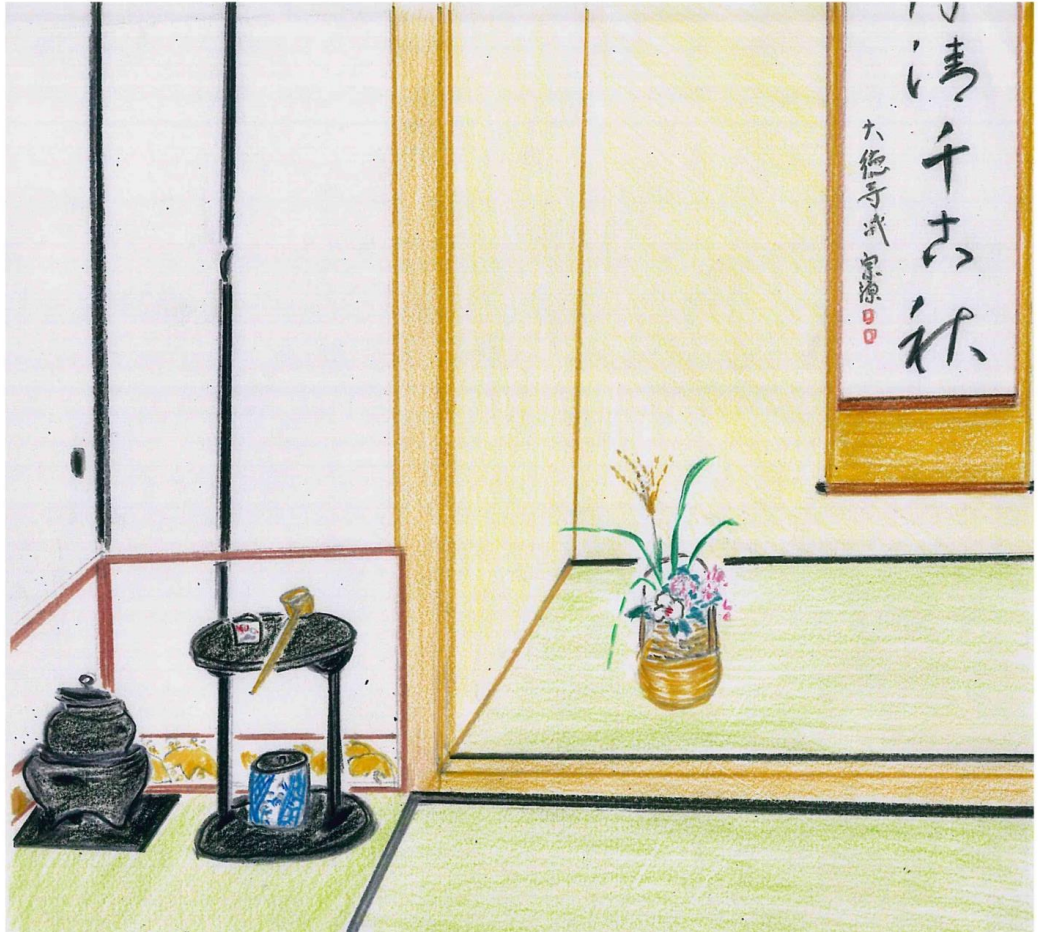
浅井 悠貴

皆さんは家などで、食事や飲み物を飲む時に使う「器」について興味を持ったことはありません

か。私は小4の時に「お椀」について興味を持ちました。その時、私は家の食器棚の奥にあったお椀を見つけて「どうしたらこんな綺麗な模様になるんだろう」と思いました。この後母に聞くと、黒と金の塗装が施されたそのお椀は「輪島塗」だと言ってくれました。そりゃ綺麗な訳ですよ（笑）。そして私はこの時から茶碗について興味を持ち、今では机の横に自分が茶碗に関して書かれた本の中でも一番面白いと感じた日本の名茶碗が五十も記載されている本を置いています。この本の中で特に気に入っている茶碗は「砧青磁茶碗」という茶碗です。この茶碗の最大の特徴は下から上にかけて一つ一つ丁寧に重ねがけされた薄い水色の塗料と金覆輪です。（金覆輪とは茶碗の縁を金で薄く覆い飾らせたもの）

最初、この茶碗を見た時には外側と内側に塗られた水色の塗料に驚きました。なんせ水色の名茶碗なんて初めて見たからです。さらに金覆輪と表千家9代目であった了々斎が名づけた銘「満月」がとても上手に噛み合っていて「これはすごく良い茶碗だ」と感じました。余談ですが、実は今熱弁した「砧青磁茶碗」ととてもよく似た茶碗が部屋にあって、最近はその茶碗でお抹茶を飲むのが最高のひと時だと感じていきます。

最後にですが、「器」というのは生きてゆく中で必ず必要とするもの。なので私はこの器について熱弁している作文を読んでもらって良さを知ってもらい、興味を示してくれたら良いなと思っています。



家元見学について

桐井 海舟

清風高校の茶道部には中学1年生の時に入部し、それから約4年半ずっと活動を続けてきました。最初のころに比べると、作法やお点前の仕方などを覚え上達していると感じていましたが、家元見学に行くとなると緊張し、もつと精進しないとイケないなと思いつ知らされました。

表千家の家元は不審庵と言い、門から玄関へ向かう清々しいアプローチや視界に入る建物や中露地に圧倒されました。不審庵を見学した後、茶会が行われました。お点前を拝見し、その煌びやかな所作に感動しました。僕もいつかこんな風にお茶を点てられるようになりたいなと感じました。その後は、北山会館というところに行

き、貴重な茶道の道具を見学させていただきました。茶道の趣深さに改めて心打たれました。

今回のこの活動を通し、茶道の風情や伝統に触れることができました。短い時間でしたがとても実りのある一日になりました。

茶道の奥ゆかしさ

福井 康太郎

私は、家元見学で不審庵に行きました。その雰囲気の奥ゆかしさに圧倒されました。

まず、不審庵に通じる道ですが、私はそこを歩いている時点で胸の高鳴りに気づきました。

竹の柵で区画分けされているのですが、その一つ一つにテーマがあるように感じました。木々で光

が遮られ、先が見えない分、何があるのかワクワクしましたし、地面の苔は時間の流れを感じさせました。言葉で表現することは難しいのですが、表千家の家元だということが一目でわかる程、手が行き届いた素晴らしいお庭でした。その休憩所で待ってから奥のお茶室、不審庵に行きました。そのお茶室でお菓子とお茶を頂きました。点てて頂いた方に、道具等の説明をしてもらいました。その中に清風出身の先輩がいて、すごい人だなと思いました。家元では、細かい所まで何故そうなっているのかといった理由があり、考えられた空間に感銘を受けました。この一年コロナの為に、家元見学のみとなりましたが、例年は作陶や、お初釜といった行事もあります。日本の伝統文化、茶道を経験できる茶道部に、是非入部してください。

家元見学

長谷川 泰星

家元見学 私は七月二十九日に家元見学に行きました。家元見学では表千家の家元と茶道に関するお道具の展示場に行きました。家元では草鞋に履き替え移動する事になっているので初めに草鞋に履き替えました。その後、露地という茶の湯に使う庭に入りました。露地はとても静かで心が落ち着く場所となっていました。そして祖堂という表千家で一番古い建物を通り様々な部屋を紹介していただいた後、新席（多くの人数でお茶を頂ける大きな茶室）に入りお茶を頂きました。家元で頂いたお茶はキメが細かく美味しいお茶でした。その後、少し離れた所にあるお道具の展示場に行きました。そこでは良く見慣れた物から初めて見た物など沢山のお道具が展示されて

いました。そこには万博で使われたお道具もあり、とても感動した事を覚えています。最後に、この家元見学で沢山の事を学べたのでとても素晴らしい体験だったと思っています。なのでこの部誌を読んでくださっている方で茶道に興味ある方がいらっしゃれば是非私たちと茶道を始めましょう。

茶道部の卒業生より

～茶道部の活動を振り返って～

二〇一八年卒 財津 真生

皆さんは茶道部と聞いてどのような事を思い浮かべますか？色とりどりの和菓子であったり、苦いお抹茶であったり、また静かな所でお茶を入れながら談笑するといったイメージを思い浮かべる人も多いと思います。

私も中学一年生の文化祭の時までは静かで堅いイメージを持っていました。しかし、実際に文化祭で見た先輩方はとても力強くただただすごいと思った事を覚えていません。その後、程なくしてご縁あって茶道部に入部する事になりました。茶道部では小西先生が作法だけでなく心構えやお菓子の御名、御軸やお花までしっかりと丁寧に教えてくださり少しずつ色々な事を学びました。その甲斐あってか茶道部に入って最初の文化祭では憧れていた先輩方と一緒に沢山のお客さんをおもてなしする事ができました。歳を重ねるごとに少しずつ私も責任ある立場になり、遂には部長を任される事になりました。部長としての一年は受験の年だった事もあり勉強との両立がとても大変な毎日でした。しかし、支えてくださった先生方や同級生、先輩達のお陰でなんとか文化祭でたくさんのお客さんをおもてなしできました。

あれから四年経った今では作法だけでなく色々なものを忘れてしまいました。今でも茶道部での楽しかった思い出はしっかりと覚えています。

最後になりましたが、小西先生や理事長先生、顧問の先生方をはじめ茶道部の活動を支えてくださった先生方、私を快く迎え入れ沢山の事を教えてくださった先輩方、一緒に文化祭を乗り切った同級生や後輩たちに感謝して締めくくりたいと思います。

ありがとうございました。

二〇二〇年卒 三田 龍之介

私は高校一年の終わりに入部しました。

昔から茶道には興味はありましたが機会がなかなか得られず、入部してみると小西先生を筆頭に部長やその他の先輩方が親身になって

ご指導して下さいだったので入部の遅さや手際の悪さでコンプレックスを感じる事なく楽しんで活動が出来ました。

そこから先輩達が引退され、部長に任命して頂き自分がしてもらった様に後輩に親身になって行動する事の出来る部長になりたいと思います。実行させて頂いたつもりです。

もしかすると逆に色々後輩に迷惑をかけていたかもしれないが後輩が居やすい環境に出来ていれば幸いです。

そして今後の部長には我々の代の不十分などところを見つけて貰いたいと思えます。茶道を通して学んだことを今後活かすも殺すも自分次第です。

最後に、私は活かせる人間になりたいと思います。

二〇二〇年卒 塚本 遼平

高校一年の春に入部して以来、今まで貴重な体験をする事ができた。特に私の記憶に残っているのは、引退前の高三主導でのお茶会だ。

これまで、先輩方のお点前のサポートをするのみで、自分自身が表舞台に立つ事が無かった。本来なら、九月の文化祭で着物を着て、お客さんの前でお手前をするはずだった。しかし、コロナウイルスの影響で、文化祭が無くなり、その機会は失われた。代わりに、茶道部の部員や理事長先生方を招いて、お茶会を開く事となった。新しい目標ができ、それに向けて、一生懸命精進してきた。途中、つまづく事もあったが、小西先生や部員達の助言のおかげで、以前よりも上達してきた。

お茶会当日、部員だけでなく、理事長先生や他の先生方の目のお点前をするというプレッシャ

ーのせいで、少し動揺していた。その結果、お菓子を召し上がった。頂く際の挨拶が空回りしてしまった。また、周りを気にして、お茶碗やお皿を出したり、引いたりする事がいかに大変なのかに気付かされた。お点前の方は、これまでの稽古のおかげで、冷房の風で茶杓が動くトラブルを除けば、案外スムーズに行えたと思う。

お茶会を終え、改めて思う事は、周囲への気配りの重要性である。お皿やお茶碗を出したり、引いたりするのも、お客さんが飽きず、そして変に心配させない為の心配りから来るものだ。これまで、事あるごとに言われてきた事だが、この機会を通して、ようやく理解する事ができた。

西大寺の大茶盛、お茶碗作り、家元見学や今回のお茶会、と言った貴重な体験ができた事は本当に嬉しく、名誉な事だと思う。これらの体験を通して、理解した事をこれからの人生に活かしていきたい。

いと思う。
三年間、本当にお世話になりました。

二〇二〇年卒 小林 由和

私は、茶道部の活動を高校一年の夏から高校三年の夏まで約二年間活動しました。一年の文化祭の後は落ち着いて茶道を学ぶ事が出来ましたが、翌年の文化祭に向けての稽古がとても厳しかったです。そのため九月の一月間は休んでしまいましたが、中西先生や当時の先輩方による激励によって厳しい指導でも頑張って通いました。十一月頃、茶道部の活動場所は校内の茶室に移りました。私が入部した当初は、マンションの一室で活動していました。茶室への引越し作業は一日かけて行われました。完成したばかりの清浄庵

は畳や木の香りがしてとても居心地が良かったです。

年末あたりから、三月のお茶室披きに向けてお稽古が少し増えました。このお茶室開きは、この年限定で行われ、茶道の関係者や、他校の先生方をお招きしました。そのため、これまで以上に練習を重ねました。新しく棚飾りという作法を習ったのですが、引退するまで覚えきれず、難しいお稽古でした。

そして本番当日、結果は大成功でした。途中トラブルはありましたが、来ていただいた方々からお褒めの言葉をいただきとても嬉しかったです。

二年生になり九月、清浄庵での初めての文化祭が行われました。この年は、清浄庵と隣の教室を使用して大盛況でした。

一月、新年を迎え、お初釜に参加しました。新年には今宮戒でお初釜が開かれるので、その時期に合わせて茶道部でもお初釜を行います。お初釜では、小西先生が濃茶を点ててくださったり、福引を行ったりと充実した一日でした。

二月頃、このあたりに私は表千家からお免状をいただきました。言葉では表現できない程、とても嬉しかったです。

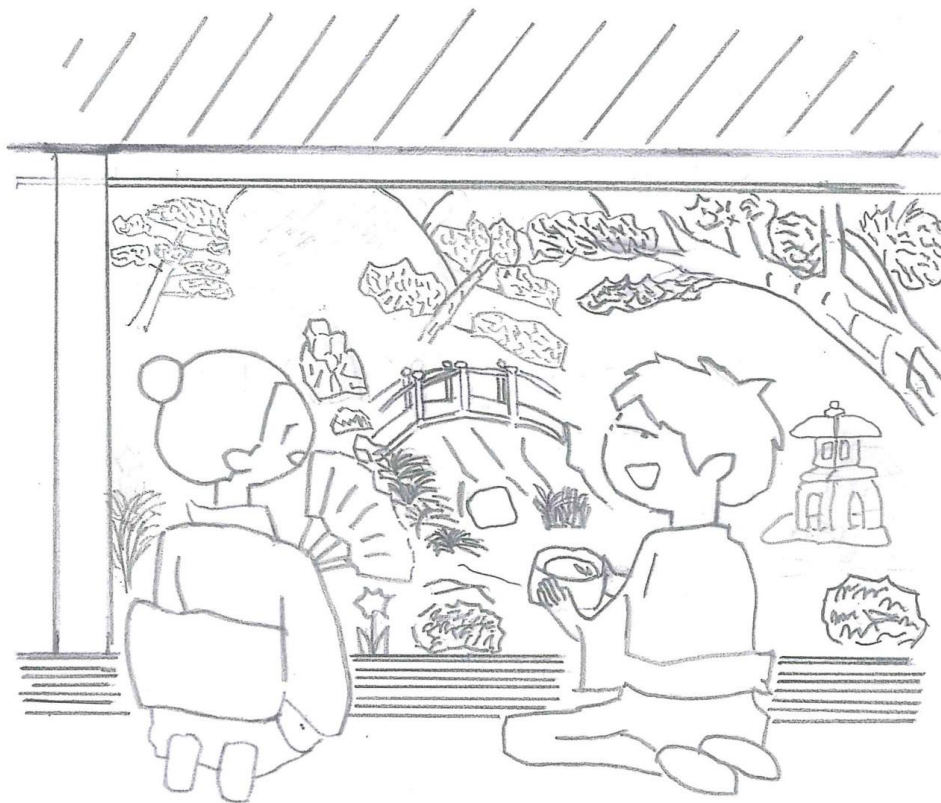
その後、コロナで休校となり、次に部活が出来たのは三年生の六月頃でした。再始動した茶道部では、お盆点前を徹底的に習いました。これまでも釜が変わるたびに何度か習っていましたが、空白期間が全員長いので今だからこそ習おうと小西先生がおっしゃいました。

しかし、最後の年は文化祭が中止になってしまいました。

八月頃、文化祭の代わりとして九月はじめに特別にお茶会を開催できることに決まりました。その日に向けて、私は今までで一番練習しました。特に記憶に残っているのは八月二十七日に私と三田くんの二人だけで個人特訓をしたことです。この特訓のお陰で、今まで間違ってた覚えていた作法の正しいやり方を学べたり、出来なかった棚飾りが出来るようになったりと私が一番成長を実感できた日でした。そのお茶会には理事長先生もお招きしたので、近づくにつれて緊張が高まってきました。

しかし本番当日、緊張しすぎてミスしてしまう所が三つほどあったのが心残りです。

私は約二年間茶道部で活動しましたが、この経験は何物にも変えられない貴重な経験だと思っています。私がかここで成長出来たのは私を指導してくださった皆様のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。



部員 十二名

高校三年生

黒澤 春陽 (部長)

高校二年生

桐井 海舟

高校一年生

長谷川 泰星

福井 康太郎

中学三年生

浅井 悠貴

川口 慶人

中学二年生

佐々木 真幸

西之坊 蓮

中学一年生

重光 慶太郎

田口 颯大

橋本 逸平

疋田 柁馬